2次募集が始まります！

市民参加型まちづくり１％システム

市では、町会・ＮＰＯ・ボランティア団体・学生などが、自分たちの地域を良くするために自主的に行うまちづくり活動を支援する**「市民参加型まちづくり１％システム」**という補助金制度を実施しています。

１％システムを活用した市民活動の分野はさまざま！

市民自らが事業を提案し、実践しています。今年度は、52件の事業が採択となり、福祉や社会教育・文化、健康づくり、人材育成、文化・スポーツの振興など、たくさんの分野で活動が行われています！

たとえば…

あっぷるぱい（牌）を広める会

りんごの歴史を楽しく学べるオリジナルカードゲームの普及活動

こどもの居場所「あさひ寺子屋」

朝陽地区の子どもたちに、禅林街のお寺で学びや遊びの時間を提供

まちづくりにチャレンジしてみませんか？

2次募集スタート！

皆さんのアイデアや経験を生かした、地域課題の解決や地域の活性化などにつながる事業の提案をお待ちしています。

▼応募期間　3月22日(金)～4月19日(金)
※4月12日（金）までに事前の相談が必要／令和６年度は３次募集までを予定。

▼事業実施期間　7月1日（月）～令和７年3月31日（月）

▼補助金の使い道　事業に使用する消耗品の購入、会場等使用料、機材のレンタル料、外部講師への謝礼、ポスターやチラシの製作費など

▼補助金の要件

	一般部門	スタート部門(※)
団体の人数	５人以上	３人以上
申請回数の上限	なし	1団体1回まで
補助金の上限額	50万円	５万円
審査方法	プレゼンテーション、審査会	書類審査のみ

（※）１％システムを活用したことがない団体が対象。

まちづくりに関する質問や相談は随時受け付けしています。本制度や申請方法など、詳しくは市ホームページ（QRコード）で確認を。

まちづくり情報を発信中！

インスタグラム「ひろさき協働まちづくり情報」では、市民活動の情報を随時掲載しています。ぜひご覧ください。

■問い合わせ・提出先　市民協働課（市役所２階、☎40-7108、Ｅメール shiminkyoudou@city.hirosaki.lg.jp）

知っておきたい

HPVワクチンのこと

ウェブでもチェック！

◀市ホームページ
厚生労働省ホームページ▶

～子宮頸（けい）がんを予防しよう～

■問い合わせ先　健康増進課（☎37-3750）

子宮頸がん はどんな病気？

子宮頸がんは、子宮の出入り口にできるがんで、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因で発症する病気です。自覚症状が現れることなく進行する特徴があります。

日本では毎年、約１万1,000人もの女性が罹患（りかん）し、約2,900人の女性が亡くなっています。

予防 することはできるの？

子宮頸がんには２つの予防方法があります。

①予防接種（一次予防）…HPVワクチンの定期接種として10代から接種することができます。

②早期発見（二次予防）…子宮がん検診で、がんになる前の状態の時点で発見することができます。20歳を過ぎたら受診することが推奨されています。

HPVワクチンってなに？

HPVの中には子宮頸がんを起こしやすい種類のものがあり、HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。

日本で接種できるワクチンは、防ぐことができるHPVの種類により、**2価ワクチン（サーバリックス®）**、**4価ワクチン（ガーダシル®）**、**9価ワクチン（シルガード®９）**の３種類があります。

誰 が接種できるの？

定期接種とキャッチアップ接種があり、対象者には４月に案内文を送付します。接種可能な医療機関など詳細は、同封の書類でご確認ください。

【定期接種】

▼対象　小学校６年生～高校１年生相当の女子

▼費用　無料

【キャッチアップ接種（令和６年度）】

▼対象　1997（平成９）年４月２日～2008（平成20）年４月１日に生まれた女性のうち、過去にHPVワクチンの接種（合計３回分）を受けていない人

▼費用　無料（令和７年３月末まで）

※令和７年４月以降に接種をする場合は、３回の接種で約10万円の接種費用が発生します。

接種完了までに約６カ月間かかります。令和６年度内に完了するために、９月までに１回目の接種を受けましょう。

副反応 がでないか心配

接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがありますが、HPVワクチンは多くの研究により、**安全性が確認**されています。

接種後に気になる症状が現れたときは、接種した医療機関等に相談してください。

全ての女性に イキイキと生きて欲しい。

齋藤美貴さん
（健生病院副院長〈産婦人科医師〉、弘前市医師会理事）

子宮頸がんは30代～40代が発症しやすい年齢のため、初産の平均年齢が30歳を超えている日本では、妊娠・出産する前に子宮を失う事も起きています。

世界的には、子宮頸がんはワクチン接種と検診で排除できる、と宣言されています。

誕生日が平成９年４月２日以降の女性で、過去にHPVワクチンの接種を合計３回受けていない人は、令和６年度までは公費接種ができます。定期接種年代での接種を逃し、再びキャッチアップの機会までも逃す女性が１人でも少なくなるように、娘さん、お孫さん、たくさんの若い女性に勧めてください。

令和５年度からは９価ワクチンが定期接種の対象となり、14歳以下は２回接種で済みます。世界中から子宮頸がんをなくしましょう！